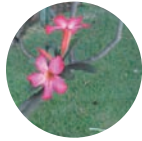
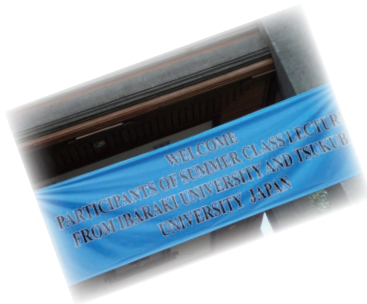


インドネシア研修旅行

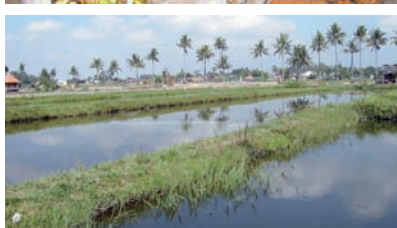
茨城大学との連携教育プロジェクト



今回、初めての試みとして茨城大学の「大学院教育プログラム」の一環で行われるインドネシア研修旅行「熱帯農業フィールド実習」に、筑波大学の大学院生5名が参加させて頂きました。ポスター発表、土壌分析、植物病原菌の観察等、充実した研修プログラムに加わることができ、全員大変大きな刺激を受けて帰国しました。

日程

8月 31日	ジャワ島、ジョグジャカルタに到着
9月 1日	ガジャマダ大学にて講義およびポスター発表
9月 2日	タバコ、カカオプランテーション見学および土壌のサンプリング
9月 3日	茶のプランテーション見学
9月 4日	ガジャマダ大学にて土壌の分析および植物病原菌の顕微鏡観察
9月 5日	ガジャマダ大学、インドネシアの王宮および世界遺産ボロブドゥール遺跡見学
9月 6日	バリ島に移動
9月 7日	バリ島フィールドツアー（スパック、農園）
9月 8日	ウダヤナ大学にて各自のポスター発表、講義およびインドネシアの農業についてグループディスカッション
9月 9日	日本到着



Ibaraki University

インドネシアの農業について学んだこと

三木悠吾 筑波大学大学院 生命環境科学研究科
生物資源科学専攻

農業に特化した国であるインドネシアにおいて、食料は必ず自給率100%に到達できるものです。まずは、農業保護政策をきっちり行い食料の完全自給を目指すべきで、余った食料はフェア・トレード企業などを通して国際市場で売ってあげたいと思います。ジャワ島やスマトラ島には未開の地が数多く存在するので、情報インフラが圧倒的に成長している時代なのだから、これらを使って、未開の地に大規模なIT農場を作ると非常に有益なことになるでしょう。低価格、高品質の野菜を作ることができれば、先進国の市場は必ず受け入れるはずです。

さらに、国をあげて中期、長期的な視点で優良企業を誘致し、きちんとした発展計画を作り、教育水準の上昇、GDPの上昇などを目指していくべきであると思います。

だが、プランテーション型農業は教育水準の上昇が起これば、ストライキの増加や賃金問題で、この形式の農業自体が崩壊する可能性があります。しかし、その時に起こる人手不足が農業機械などの導入でカバーできた場合、教育水準をはじめとする国民が得られる公共サービスの質が著しく上昇すると考えられます。その結果、インドネシアも先進国に近づいてくるのではないかと思います。

蓮見 愛 筑波大学大学院 生命環境科学研究科
生物資源科学専攻

インドネシアはここ数年でGDPがおよそ二倍になっています。また日本をはじめとした諸外国との貿易も年々活発化しています。まさに経済発展の真っ只中にいるといえる状況です。インドネシアの農業は今より効率化した方がよいと思いますが、すべてがそればかりではないとも思います。インドネシアに限ったことではありませんが、自分たちの伝統を誇りにして残しつつ発展する方法を模索して欲しいです。

また、先進国は化学農業による様々な影響を経験し、現在の有機肥料や生物農業を重要視する風潮に至っています。インドネシアの人々はすでにそれらの重要性に気づき、実際に使用していますが、先進国の体験してきたことをよく学び、よりよい形で発展してほしいと思います。

今回の研修で、同じ分野で研究をしている同年代の人と多く知り合い、多くの人たちの意見や考え方や知識の豊富さにふれ、自分に研究に対する意欲がわいてくるのが感じられました。インドネシアの大学院生はもちろん、茨城大学や同じ筑波大学の学生とも意見交換をする機会を得られ、今回の研修に参加できたことを大変うれしく思います。

天野貴久 筑波大学大学院 生命環境科学研究科
生物資源科学専攻

インドネシアにおける農村開発の課題と背景

近年の肥料の値上がりにより、農家の作物の生産にかかるコストは値上がりしています。また、農村では農業の機械化がほとんどされておらず、労働賃金も安いいため、特に若者の農業に対する倦厭傾向が広がっています。多くの学生が、工学部や理学部を希望し、農学部の人気は低下し、農学部を出た学生も、就農したいという人が減っています。農業従事者の所得格差の大きいことも問題で、農家が農業についての適切な知識や情報を持たないために、作物の価格が暴落したり、非持続的な農地管理を行うために、生産性が低下していることも原因になっています。

これらを打開するために、政府による農家の所得保証、作物の価格保証、農民への技術の普及活動、subakのような農家の生産コミュニティへの補助、農学部への研究費の増資、子供たちへの農業へ関心を持ってもらえるような授業を行うことが大切であると考えます。また、農業政策の中で経済学的な考え方も取り入れなくてはいけないと思います。

周 琳 筑波大学大学院 生命環境科学研究科
生物資源科学専攻

On the way of development of agriculture and rural area in Indonesia, different forms and levels' intercommunion are necessary, especially for the students who are interested in agriculture and might be contributed to the development of agriculture. The developing progress and historical experience of improvements of rural area and agriculture can be used for references. The agency like JICA (Japan International Cooperation Agency) is one of the activity agencies which aim to provide the international help to the developing country. It is very helpful for the developing countries. Precision and ecological agriculture like in Japan now is the one that Indonesia can improve forward.

